繊維街道

私の道中記

サンコロナ小田　社長

小田 外喜夫 氏 4

運命を変えた撚糸工連事件

1985年、日本撚糸工業組合連合会職員の横領事件捜査に端を発した撚糸工連事件が発生する。使途不明金の解明を進めるうちに、国家公務員や現職国会議員への贈収賄が芋づる式に発覚。現職国会議員の逮捕へと発展した。同工連理事長だった兄、清孝も動きが取れなくなる。船頭を失った小田合繊工業は赤字経営に陥った。小田は、師と仰ぐ神戸大学の稲葉と大徳寺の尾関に、今後どうすべきか助言を求めた。

一般紙が連日のように私の兄のことを1面で報じているので稲葉先生は、小田合繊工業を救済しに行けばサンコロナも関連会社だとみなされ、今のお客さんを失うことになると心配し、行ってはいけないとおっしゃる。船頭を失った小田合繊工業は赤字経営に陥った。小田は、師と仰ぐ神戸大学の稲葉と大徳寺の尾関に、今後どうすべきか助言を求めた。

一般紙が連日のように私の兄のことを1面で報じているので稲葉先生は、小田合繊工業を救済しに行けばサンコロナも関連会社だとみなされ、今のお客さんを失うことになると心配し、行ってはいけないとおっしゃる。一方、尾関師は、兄弟が助けなくて誰が助けるのかとおっしゃる。人生の師がそれぞれ違うことを言われる。結局、小田合繊工業の本社がある石川県小松市に行き、陣頭指揮を取ることにしました。下請けもお客さんも離れていき、危機的状況でした。しかし、社員はついて来てくれました。

私は兄を父親のように慕っていたので、兄の会社のままでいいと思っていたのですが、1年ほどすると、経営権をはっきりさせた方がいいという話になってきました。

それまでとは一転し、小田の口調が重くなる。言葉を選びながら、慎重に語り始めた。敬愛する兄の尊厳に傷が付かないように話そうとしているように見えた。

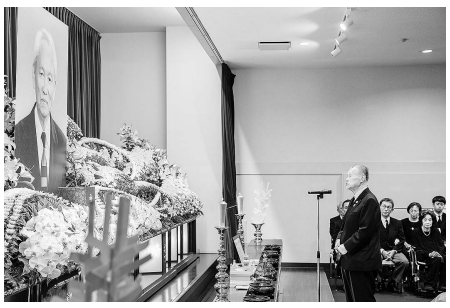
尾関師に相談すると、「経営する以上は雇われマダム（社長）ではだめだ」とおっしゃる。姉も、「お前がやるのなら、経営権を持ってちゃんとやるべきだ」と言いました。それで、株式の51％以上を持ちたいと、兄も含めた幹部たちの会議で提案すると、仕方ないという結論になりました。

この経営権の移管は、小田合繊工業の繊維事業を小田が買い取るという形で実施された。小田合繊工業自体は、サンコロナ小田とは資本関係のない会社として現在も存続している。

小田合繊工業の繊維部門は、世界一の分繊糸加工技術を持っていました。当時はこの糸をオーガンジー用として国内で月間3～10トンほどしか売っていませんでした。これを、海外のインテリア市場へ売ろうと考えました。イタリア、ドイツ、フランスなど欧州のインテリア市場へ提案したところ、販売規模が一気に100～150トンに拡大しました。

サンコロナは2013年に、同社のグループ会社と合併し、サンコロナ小田となった。現在、山口県の自社工場に加え、08年に中国に設立した無錫小田合成繊維でも分繊糸を生産。インテリアだけでなく、ブライダル、ファッション市場向けの糸や生地として世界中へ販売している。カーテン縫製工場として、上海小田装飾用品を01年に中国に、小田ベトナムを09年にベトナムにそれぞれ独資で設立。ニトリやサンゲツなどと組んで、カーテンの縫製事業も拡大した。このような事業に、大化けしそうな新たな事業が加わる。

（文中敬称略）



昨年執り行われた清孝氏の社葬では、森喜朗元総理が弔辞を読んだ

インドネシア日系企業

制限付きの操業続く

受注大幅減の企業も

インドネシア保健省の17日の発表では、同国内の新型コロナウイルス感染症者数は1万7514人。そのうち約3分の1が首都、ジャカルタに集中する。ジャカルタ特別州は19日、4月10日に始まった、新型コロナ対策「大規模な社会的制限（PSBB）」を来月4日まで延長すると発表した。依然としてウイルスの封じ込めには至っていないようだ。

こうした中、インドネシア国内に拠点を置く多くの日系繊維企業は引き続きPSBBに応じながら、工業省の認可の上、操業を続けている。受注量への質問には回答を避けた企業もあるが、減少、大幅減と答えた企業もある。現地の流通はほぼ停止状態にあることから、同国内で流通する繊維製品、衣料用や資材用織布を手掛ける企業では著しい環境悪化、受注減にさらされているとみられる。

ジャカルタやタンゲラン市にある東レインドネシアグループは、工業省の許可を取得し、操業を続ける。出勤者数の抑制・時差出勤、マスク着用、工場への入場時体温チェックなどの当局の要請を踏まえた感染拡大の防止策を実施中。「今後も、政府の方針に基づき適切な対応をとっていく」としている。

クラボウグループで紡織を手掛けるクマテックス（ジャカルタ）は工場のあるタンゲラン市でPSBBが発令されているが、工業省による許可を得て、入場時の体温チェックなどの感染防止策を講じたうえで通常操業を続けている。操業度は、新型コロナ感染拡大による世界的な経済情勢の悪化により、70～80％の操業度という。

日清紡グループは、インドネシアに紡織のニカワインダストリー、織布・染色加工の日清紡インドネシア、縫製のナイガイシャツインドネシアを展開する。ジャカルタ事務所は規制により閉鎖中だが、カラワン市にある工場に機能を移して業務を継続中。工場は、工業省の認可を得て操業を続けている。

東海染工の染色加工場TTI（西ジャワ州ブカシ）も感染予防対策を講じた上で、認可を受け操業可能な状況で、染料・薬品の供給面でも影響は出ていないと言う。ただ、取引先である現地の生地メーカーがほぼ休業状態の上、同社が得意とする民族性の強い衣料品を販売する流通業も営業停止状態で、受注は大幅減となっているもよう。

ユニチカグループの紡織加工会社、ユニテックス（西ジャワ州ボゴール）、ナイロンフィルム製造のエンブレムアジア（西ジャワ州ブカシ）は認可を得た上で、感染予防対策をしながら、通常通り稼働している。

東レ経営研究所

20年度は6.5％のマイナス成長

東レ経営研究所は19日、2020年1～3月期GDP（1次速報）の公表を受け、日本経済の見通しを改訂した。実質GDPの成長率見通しは20年度がマイナス6・5％、21年度が2・8％である。

この4～6月期の実質GDPは前期比年率20％超の記録的な落ち込みが予想される。緊急事態宣言発令による休業要請や外出自粛の影響で、個人消費は25％程度のマイナス。世界的な都市封鎖の影響で、輸出は60％近いマイナスの予測。1955年の統計開始以来最大のマイナス幅となる。

4～6月期でいったん底打ちし、7～9月期以降はプラス成長に戻るが、20年度の成長率は6・5％のマイナス成長にとどまる。消費者物価も前年比マイナス0・9％と、デフレに逆戻りする。

感染の第2波が到来した場合は、予測以上のマイナス成長を予想。緊急事態宣言の再発動がなくても、投資や消費などの経済活動はある程度の抑制状態が続き、景気のV字回復を阻みそうだ。

経常、純利益が過去最高

蝶理

蝶理の2020年3月期連結決算は、売上高3293億円（前期比7・6％減）、営業利益82億円（2・1％増）、経常利益86億円（0・3％増）、純利益61億円（8・4％増）と減収増益だった。

化学品事業の有機化学品分野の市況低迷などが響き減収。一方、繊維事業では海外素材分野の業績が堅調に推移し、国内衣料分野の収益性も改善したため増益となった。経常利益は4期連続、純利益は2期連続で過去最高益を更新した。

繊維事業も、売上高1145億円（4・8％減）、経常利益40億円（8・6％増）と減収増益。21年3月期の連結業績は、売上高2千億円、営業利益67億円、経常利益70億円、純利益46億円と減収減益を見込む。業績が、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大に大きく影響されると予測する。

10期連続で過去最高売上高

サンゲツ

サンゲツの2020年3月期連結は売上高1612億円（前期比0・5％増）、営業利益92億円（57・2％増）、経常利益98億円（46・9％増）、純利益14億円（60・0％減）だった。売上高は10期連続で過去最高を更新した。

インテリアセグメントのうち、床材事業の売上高は446億円（3・7％増）だった。ビニル床タイル見本帳「フロアタイル」がけん引したほか、カーペットタイル「DT」「NT－700」シリーズも好調だった。

カーテンと椅子生地のファブリック事業の売上高は84億円（1・8％増）で、カーテンの「AC」や椅子生地の「UP」といった見本帳が好評を得た。

純利益は米国子会社ののれん及び無形資産の減損を計上したことで減益となった。

桑村繊維株式会社

本社　兵庫県多可郡多可町中区曽我井315

Tel.(0795)32－1180

Fax.(0795)32－0065

https://www.kuwamura.co.jp/

織物創造発信基地

新型コロナ響き赤字拡大

ダイドーリミテッド

ダイドーリミテッドの2020年3月期連結決算は、売上高2355億円（前期比10・5％減）、営業損失7億5千万円（前期は1億2400万円の損失）、経常損失3億6千万円（2億5900万円の利益）、純損失14億円（6億9千万円の損失）で、赤字幅が拡大した。新型コロナウイルス感染拡大による店舗の臨時休業などが響いた。

衣料事業は売上高199億円（12・1％減）、営業損失5億4900万円（2億2500万円の利益）。「ニューヨーカー」ブランドを中心とする国内小売販売は、天候不順や消費増税の影響に加え、新型コロナで実店舗売上高が低下した。ネット販売は堅調だった。

今期の業績は、現時点で合理的に算定することが困難なことから未定としている。

往来

「ある程度の生産キャパシティーを持ち、仕事を地道に探したのが良かった」

と語るのは、婦人パンツ製造・丸繊（広島県東広島市）の福田好明社長（写真）。同社は1981年、縫製工場として創業。ユニフォームやカジュアルパンツなどの生産を請け負っていたところ、90年代半ばに景気が低迷し岐路に立たされた。その時、知人を通じて近隣の婦人パンツ製造卸からモンスラの縫製の依頼があり、「200人の縫製工でスピード感ある仕事を心掛けて対応した」。近隣の婦人パンツ製造卸の間で供給力が評判になり、事業が軌道に乗ったと言う。最近では新型コロナウイルスの感染拡大に影響を受けているが、自販のスタートなど地道な努力を続ける。地域に密着した企業の底力で、今後も経営の維持拡大が期待される。

人事

高島屋（19日付）取締役　高久充▽社外取締役　横尾敬介、有馬充美▽監査役　東リ（6月24日付）退任（取締役カーペット特命担当＝常勤顧問に就任予定）安嶋二郎

はるやまホールディングス（6月25日付）社外取締役　田尻邦夫、清水夏子▽退任（取締役兼常務執行役員）伊藤卓▽同（社外取締役）松田良成、菅谷貴子

AOKIホールディングス（6月26日付）監査役　栗田宏▽退任（監査役）榎本雅也

連結決算

単位＝100万円、配当＝円、▲損失
（IFRSの純利益は親会社株主帰属当期利益）

通　期

□蝶理

	20.3	19.3
売上高	329,360	356,537
営業利益	8,219	8,047
経常利益	8,685	8,660
純利益	6,101	5,630
配当	63	60
〔繊維〕		
売上高	114,520	120,240
経常利益	4,028	3,710

□サンゲツ

	20.3	19.3
売上高	161,265	160,422
営業利益	9,268	5,895
経常利益	9,844	6,699
純利益	1,432	3,579
配当	57.5	56.5

□ヨネックス

	20.3	19.3
売上高	61,967	61,097
営業利益	2,421	2,482
経常利益	2,265	2,469
純利益	1,652	1,722
配当	5	5

□AOKIホールディングス

	20.3	19.3
売上高	180,220	195,054
営業利益	6,649	13,491
経常利益	5,501	11,890
純利益	447	4,602
配当	46	60

□ゼビオホールディングス

	20.3	19.3
売上高	225,312	231,629
営業利益	5,247	5,766
経常利益	5,842	6,725
純利益	408	1,884
配当	32.5	35